

■和田博雄 官僚、政治家。“和田農業班”“和田安本”などユニークな革新政治指導者だったが、未完の利器に終わった。

わだひろお
日比谷公園・1903＝ 埼玉県川越で中学の数学教師の次男に生まれる。

日露戦争終・1905＝ 2歳：

父の赴任地岡山へ移り、

明治天皇没・1912＝ 9歳：

岡山中学、

原敬首相暗殺1921＝18歳：

六高を経て、

治安維持法・1925＝22歳： 東大法学部卒業。

海軍軍縮条約1930＝27歳： 農林省に入省。

満州事変・・1931＝28歳： 当時の農林官僚の指導者石黒忠篤の影響下、小作問題・農地問題に意欲を示すが、

芥川直木賞始1935＝32歳： 内閣調査局(のちの企画院)へ出向。

日中戦争始・1937＝34歳：

このころの革新官僚左派的“和田農業班”の調査活動が治安維持法にとわれて、

第二次大戦始1939＝36歳：

日米開戦・・1941＝38歳： 農政課長のとき、企画院事件に連座。

敗戦・・・・1945＝42歳： 敗戦後に無罪判決。農政局長に返り咲き、松村謙三農相(幣原内閣)の下で第一次農地改革を、

新憲法公布・1946＝43歳： 第1次吉田内閣の農相に異例の抜擢をうけ、食糧危機への対処と第二次農地改革を手がけた。

新憲法施行・1947＝44歳： 全国区参議院議員に当選(緑風会)。片山内閣に経済安定本部長官として入閣。旧企画院グループをはじめ朝野の人材を集めた“和田安本”は戦後の経済復興の先鞭をつける。

極東裁判決・1948＝45歳： 総選挙で大敗直後の社会党に入党。

三大事件・・1949＝46歳： 総選挙で大敗直後の社会党に入党。

独立回復・・1951＝48歳： 左右分裂後は左派社会党に属し、

メデー事件・1952＝49歳： 総選挙で岡山一区から当選(以後連続当選6回)し、政策審議会長、書記長として左社の躍進に貢献。

55年体制始・1955＝52歳： 左右統一後、

なべ底不況・1957＝54歳： 政審会長のとき全購連事件で党から統制処分を受ける。

のち国際局長、初代副委員長を歴任するが、

安保闘争・・1960＝57歳：

いざなぎ景気1966＝63歳： 政界から引退、ついに未完の利器に終り、

美濃部都知事1967＝64歳： 現代俳句協会総会出席の途次、東京芝公園内の街路上で心筋梗塞起こし、急死した。